

# 四賀地区 図書だより

令和8年2月1日号

発行 四賀公民館図書視聴覚委員会  
(事務局 TEL 64-3112)

## 「心のふるさと」四賀に伝わる民話

今年も2月号は、平成6年に四賀老連民話グループにより発行された『心のふるさと～むらの今昔物語～』の中からお話を紹介します。今回は“狐にまつわる民話”のひとつです。

### 『廣田寺のおっさま（和尚様）と どん狐』

（『心のふるさと』より抜粋）



むかし昔、廣田寺に徳の高いおっさまがいて、村人の信望も厚かった。村人が稲倉に行くには七嵐から上って稲倉峠を越えなければならない。ところがこの峠には“どん狐”という悪がしい狐がいて通行人を化かした。おっさまは、何とかしてこの狐のいたずらをやめさせ、旅人の難儀を救ってやりたいと思っておられた。

秋のある日、おっさまは稲倉に葬式ができて、お供の引く馬に乗って出かけられた。葬式も済み、帰りに峠にさしかかる頃には日も落ちていた。しばらく行くと、曲がり角の石に若いきれいな娘がすわっていて「会田の者だが、峠はさびしいので一緒に行ってもらいたい」と言った。おっさまは「女一人ではさびしかろう。この馬に乗るがよい」と言い、娘を綱で鞍に縛りつけた。会田の町に着いて、娘は「もういいからおろして」と言うけれどおろそうとしない。お寺に着くと、無理やりに「お風呂へ入れ」と言って娘が入ったところにふたをして、大きな石をのせて重石にした。娘は熱くて息もつまりそう。とうとう泣き声をあげ「出してくれ」と言う。

おっさまが「お前が“どん狐”ということは初めから分かっていた。出してもらいたいなら、もう悪さをするな」と言う。「もう絶対に悪いことはしません。どうかかんべんしてください」と頼むので、おっさまは風呂から出してやった。“どん狐”はお礼を言いながら裏山の闇の中へ消えて行ったという。（竹内源尊）



この狐なんとも間抜けな狐で、どこか憎めないですね。

狐といえばお稲荷様が思い浮かびます。お稲荷様は「稲が生る（いねがなる）」が語源とされていて、稲の豊作を願って祀られた神様ですが、神仏習合により仏教の荼枳尼天（だきにてん：狐に乗る姿）と結びついて、狐がお稲荷様の神のお使いとして理解されるようになりました。狐が昔から人間の暮らしや稲作と関わりが深かった事もお使いに選ばれた理由だという説もあります。そしていつの頃からか様々な迷信や俗信、誤解が生じ、狐がずるい油断のならない動物で人をたぶらかすもの、という考えを植え付けられてしまった事が、狐にまつわる様々な伝説を生み出したのだらうと解釈されています。

稲荷神社は、最も身近な神社のひとつで、全国では稲荷神社が一番多いそうです。四賀も同様に“狐にまつわる話”も『心のふるさと』には17話が載っていて、他の生き物のお話に比べて断トツ1位でした。もちろん『狐の恩がえし』という良い狐のお話もありますよ。



# 新着図書・おすすめ図書のご案内



## 新着図書

### 児童書

『パンドロぼうとスイーツおうじ』  
『チマのはじめてのぼうけん』  
『さかなをたべたあとのほね』  
『みえないおしごと』  
『ぼくらの自由がうばわれる時』

柴田 ケイコ 作  
藤嶋 えみこ 作  
加藤 休み さく  
とくなが けい さく  
ジョージ・タケイ 著

『エピクロスの処方箋』  
『彼女たちは楽園で遊ぶ』  
『暁星』  
『国宝 上・下』  
『飼い犬に腹を噛まれる』  
『石原家の兄弟』  
『足腰復活 100 年体操』

夏川 草介 著  
町田 そのこ 著  
湊 かなえ 著  
吉田 修一 著  
彬子女王 著  
石原 伸晃 他 著  
巽 一郎 著

### 一般書



## おすすめ本

### 『最後の一色 上・下』

和田 竜 著

織田信長による天下統一の動きが広がる中、丹後の守護大名である一色義員の嫡男である17歳の青年・五郎が戦場に現れる。圧倒的不利な状況にも関わらず、その凄惨な戦いぶりで周囲を恐怖に陥れる。戦国時代でも特に混沌とした天正七年からの3年間を舞台に、一族の存亡をかけたぶつかり合いを描く。戦場の迫力、人間の情熱と野望が描かれた歴史小説。



### 『家族』

葉真中 顕 著

裸の女性が交番に駆け込み「事件」が発覚した。彼女を監禁していたのは、周囲を支配することにたけていた「おかしい女」と夜戸瑠璃子。自らのまわりに疑似家族を作り出し、騷という名の暴力も正当化し「民事不介入」を盾に大胆な犯行を繰り返していた。

2011年発覚した「尼崎連続変死事件」をモチーフにしたスリリングな物語。

### 『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木 俊貴 著

「シジュウカラが20以上の単語を組み合わせて文を作っている」ことを世界で初めて解明した研究者による一般向け解説書。鳥の「言語」を科学的に解明するための実験方法や研究の裏側を、軽快な文体で綴る。



## 編集後記

2月6日からはミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピック、8競技116種目でアスリートたちの熱戦が始まる。信州出身者も多く、応援にも熱が入る。イタリア料理の代表、パスタやピッツアを食べながら、観戦ツアーに**イタリア**クションで現地応援気分を味わおう！

